

平成30年度第4回青梅市行財政改革推進委員会議事概要

1 日時

平成31年2月18日（月） 午後2時00分から午後3時29分

2 場所

青梅市役所 議会棟3階 第3委員会室

3 出席者

[出席委員]

菊池 一夫委員	水村 美穂子委員	川合 純委員
原島 正之委員	土屋 喜夫委員	大住 修司委員
鳥居塚 卓委員	北島 朋子委員	

[出席青梅市職員]

池田副市長以下8名

4 議事概要

(1) 副市長あいさつ

(2) 委員長あいさつ

(3) 青梅市行財政改革推進プラン取組状況等の検証結果のまとめについて

ア 第4回委員会の進め方について 【財政課長説明】

イ 検証結果報告書のまとめ 【財政課長説明】

・「地域防災計画等の見直し」および「市民サービスの向上」に対する検証結果報告書の記載内容の確認を実施。

(4) その他 【財政課長説明】

ア 市長に対する検証結果報告書の提出については、委員会を代表して、菊池委員長および水村職務代理が行うこととする。

イ 次回委員会は、平成31年5月に開催予定。

5 主な意見等

○「地域防災計画等の見直し」に対する検証結果について

(自主防災組織と自治会加入)

[観] 自治会加入については、自治会側の問題であり、市が対応することは難しいのではないかと考える。それよりも、青梅市の防災は、自治会をベースに考えられていることが分かれば、自治会加入の必要性が分かると思うので、地域防災計画上、自治会が防災組織に組み込まれているということを明記してほしい。

[観] 自治会加入が、ここでの目的ではないと思うが、実際、未加入者が多いということは問題だと思うので、既存の文章の「勧誘してみてはどうか」のところに、「また、

自治会は、隣人同士の親睦、老後の見守り運動でも大きな役割を果たしており、この面からも合わせて勧誘してはどうか」という内容を付け加えてみてはどうか。

[まとめ] 災害弱者となる高齢者に対する普段からの見守りという視点と、自主防災組織の構成員の多くは自治会であるので、その位置づけなどを十分反映した文章としたい。

(自主防災組織の情報発信)

⇒ 原案どおりとする。

(消防団)

[意見] 「現在行っている実践的な体制」と書いてあるが、消防団は消火だけではなく災害救助も行うと思うので、自主防災組織と消防団の活動が重ならないよう、災害時に消防団がどういう活動をするかという、具体的な活動内容も明記した方が分かりやすいのではないか。

[意見] 消防団については、昼間帯はほとんどの団員が外に働きに行ってしまうため、人員が集まらないという問題が発生している。

[意見] 地域防災計画に、消防団との関わり方があいまいな感じになっている。どういう関係性であれば、ベストの行動が執れるのかという意味でも、明確にした方がよいと考えるが、実践的な体制を明記することはできるのか。

[まとめ] 昼間、夜間などいろいろなケースが考えられるため、実践的な体制はなかなか記入しきれないが、活動内容については、予防や災害対応などいろいろあるので、その活動内容を、ある程度明記していくということは可能ではないかと考える。

(停電対策)

⇒ 原案どおりとする。

(避難場所・避難所の更なる周知)

[意見] 防災計画というよりも、実際の運用の際に、どう自主防災組織に伝えるかということが問題と考える。

⇒ 現在、避難所ごとに避難所運営マニュアルの作成を進めている。これが全地区完成すると、自分の避難所には、避難者が何人くらい想定されていて、災害が発生した時に、どのような体制がとれるのかというのが見えてくると思う。地域防災計画においても、避難所運営マニュアルの整備をする旨掲載している

[意見] 避難所運営マニュアルを作っても、どう徹底するかが問題。すごく細かく実際に役立つよう作られているので、せっかく作ったマニュアルをどう活かすか考え、徹底できれば、うまく運営できるのではないか。

[意見] 防災訓練に参加しない人の方が、避難所・避難場所のことを理解していない。自治会が主催する防災訓練に参加していない人ほど、どうしていいのかわからず、とにかくそこに行こうということが起きるのだと思う。防災ハンドブックはあるが、見ない人も半分くらいはいると思うので、そのような人たちに対しても、自然に情報が入ってくるものがあるとよい。例えば、ゴミカレンダーなどは、皆見るので、何かあった時ここを見ればよいと、皆が必ず見るものところに、防災情報を入れていくのはどうなのだろうか。

[意見] 市民全員というのはなかなか難しいので、少なくとも、絶対認識していなければならぬと思う自治会長や役員クラスといった、肝心のキーマンに最低限認識してもらえれば、まずは良いのではないか。そうすれば、何かあった時には、その人から情報が伝達できると思う。

[まとめ] 「丁寧に説明し、理解されるよう」ということだけではなく、「周知を工夫する」といった表現を加える。

(特別養護老人ホームとの連携)

⇒ 原案どおりとする。

(ボランティアとの連携)

[Q] 外国人ボランティアの受入れ対応はどうなっているのか。

[A] ボランティアセンターに確認したところ、外国人ボランティアの受入れ体制は、整っているとのことである。

[意見] 窓口は社協、ボランティアの振り分けは市という体制がしっかりできていれば、外国語でも救助でもいろいろなことができると思う。「市も連携して受入れ体制の確立に努め」というところは、窓口と采配の指示が連携していればよいということが書いてあるのだと理解している。

⇒ 原案どおりとする。

(市民との協力)

[意見] 3行目から5行目までの記述は、必要ないのではないか。また、市民の皆さんが、災害の時には、自分の役割なり責任をしっかりと果たしていくことが大切と思うため、最後の「市民との協力体制を作りあげていくことも」とあるが、「…が」ではないのか。

[意見] この項目は、最も基本的なことだと思う。市が何かやってくれるという期待を、やたらと持たれるのはまずいというのはそのとおりであり、協調してもよいと思う。むしろ、この項目は、最も基本的な市民の心構えとして、一番最初に持っていてもよいのではないか。そうすることにより、次の「自主防災組織と自治会加入」などにつながっていくのではないか。

[意見] もっとも大事なことだと書いてはどうか。

[まとめ] 3行目から5行目までの記述は削除、最後の部分は「協力体制を作りあげていくことが、もっとも必要」に修正するとともに、検証結果項目の冒頭部分に移動する。

(地域防災計画における到達目標の検証)

⇒ 原案どおりとする。

(青梅市民防災ハンドブックのPR)

⇒ 原案どおりとする。

○「市民サービスの向上」に対する検証結果について

(ホームページによる情報提供)

[意見] 「よくある質問」があれば、市民の意見を反映できるのではないか。「情報を受ける

側の視点に立った情報発信を心掛ける必要」というところに対する具体的な内容になると思うので、そこを工夫していただきたい。

[まとめ] 「情報を受ける側の視点に立った…」の前に、「よくある質問の掲載など」を追記する。

(メール・ツイッターによる情報提供)

⇒ 原案どおりとする。

(広報おうめによる情報提供)

[意見] 「全てのページを読まず、必要な記事だけ読む」とあるが、「読まず」ではなく「目を通さず」に修正してはどうか。

[まとめ] 「全てのページを**読まず、必要な記事だけ読む**」を「全てのページに**目を通さない**」に修正する。

(シティセールスに関するPR)

[意見] 報告書とは関係ないが、「全国梅サミット」などを、もう少し宣伝してみてもどうか。

⇒ 十分PRを図ったつもりではあるが、市としても、シティセールスの大きな一環であるので、今後、ホームページ、広報、ツイッターなどにより、更なるPRを図っていききたい。

[意見] 市民サービスの向上とは違うかもしれないが、市のホームページに梅の開花状況を載せてはどうか。出かける際、その場所のお薦めを、市のホームページを閲覧する方も多いと思う。また、「ゆめうめちゃん」や「青梅BLUE」についても、市内で頑張っている、市外の方にも認知してもらわなければならないので、シティサービスのPR対象は広くした方がよい。

○その他（全体を通じて）

[意見] 文章が全体的に長い。適当な長さに区切って表示した方が読みやすいのではないかと。また、「者」という表現も変えてはどうか。

[意見] 「はじめに」の部分において、今回の2事業を選定した理由を入れた方がよいのではないかと。

[Q] 今回の検証結果報告書については、要望事項が多くあるが、受け取った後、予算に反映することとなるのか。実施するかどうかという部分はあるが、せっかく提案しても実行されなければ勿体ないと思う。

[A] 検証結果報告書の提出を受けた後、各事業担当課に内容を下させていただき、対応の可否について取りまとめ、平成31年度の第1回委員会の中で報告をさせていただくことを予定している。